バレエ・バレエ・バレエ

威鷺羽

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
バレエ・バレエ・バレエ

【Ｎコード】
Ｎ５５１４Ｗ

【作者名】
威鷺羽

【あらすじ】
クラシックバレエの話です。

第1話・自己紹介

まずは自己紹介です。

バレエ大好き永遠の少女?です。でも夢見る夢子さんではありません。

バレリーナ?そうね、あこがれていたけど、私はなれませんでした。

だけど、バレエは大好きなままです。

だからいろいろなバレエに関する小説を書こうと思います。だってあんまりないでしょ?バレエ小説やバレエ漫画が。少ないと思うの。あってもすごい天才が出てきたり、なんでも踊れる才能も美貌もばっちりの女の子が主人公。これは海外作家や日本で出版されたシリーズだけど読んでいくうちにだんだん主人公はプロに近づいていく・・。もちろん大抜擢されての悩みやプロとしての苦しみはお約束。

それはそれでおもしろいけど、もっとこう身近な話も読みたいな。

私自身とうとうソロや役の1つももらえなかった、万年その他大勢組だったから。そういう人が大多数でしょ。そうして挫折して発表会で満足してバレエをやめていくの。

だから自分で書こうと思ったの。

バレエがわからないひとやバレエが嫌いな人がいたらごめんなさい。

大好きな人がいたら、ぜひ読んでください。だけどおもしろくなかったらごめんなさい。

ここはオールバレエオンリー小説もしくはエッセイです。

・・・小さい声で・・・あのね、もしもバレエ小説で成功した

ら・・もしもの話です。バレエ小説っていうジャンルがあって私がプロのバレエ小説家になれて本がいーっぱい売れたらね、売れたら、の話ですよ。そしたらお金が入るでしょ。そのおかねを使う・・バレエ映画に！そう、私が創るの！それが私の夢です。

バレリーナにはなれなかったけど、バレエ映画っていうのを創ってみたいの。

等身大のバレリーナの映画。夢見るのは自由でしょ。だから、それが私の今の夢。私が監督。たくさんのバレリーナの卵達を映画に出して踊らせてみたいな。もちろん子供に限らず大人も、老若男女限らずです。踊るっていうのは本当に楽しいことだから。

威鷺羽、イロハっていいます。兄2人、ここに小説を書いています。で入れてもらいました。

どうぞどうぞ、よろしくお願いします。

（そうそう、一時よそでバレエブログを作っていました。削除の上こちらに引っ越しです。少ないとはいえ結構読んでいただいていました。常連さんが２０人ぐらいかな？その２０人の誰かがここを見てあれ、どこかで聞いたような・・と思われたらそれ私なの。こっちでも仲良くしてくださいね。）

第2話・子供からバレエ　VS　大人からバレエ

子供から始めたバレエ。アーコちゃん。子供からレッスンしていた子供バレエ組。

大人から始めたバレエ。ベーコちゃん。大人からレッスンしていた大人バレエ組。

たとえば、です。アーコちゃん。3歳から13歳まで10年間バレエをしていました。発表会は毎年出てバレコン（バレエコンクール）の出場歴ありです。でも受賞歴ないしプロの道は険しい。だから受験をきっかけにやめました。今33歳。

アーコちゃんは結婚して子供産んで落ち着いたのでカルチャーセンターの美容バレエ教室に入ったとします。もちろん昔取った杵柄。最初はぎこちなくともカンを取り戻すととっても上手！カルチャーセンターはいわば主婦クラスで美容と健康のためですので簡単です。だから簡単だなあ、と思いつつとっても楽しく踊っています。

一方ベーコちゃん。あれはいつだったか、小学生の時にテレビでバレエを観てとてもキレイだと感動しました。それで自分でも踊ってみたくなりました。でも親に反対されました。お金がかかりそうだからダメって。ベーコちゃんはあきらめました。だってお金がないとバレエってできないのねって思ったから。

そして30年後。今33歳。

ベーコちゃんも結婚して子供産んで落ち着いたのでカルチャーセンターの美容バレエ教室に入りました。子供の時の夢を今かなえようと思ったのです。産後の体型のくずれも治したいから一石二鳥だと意気込みました。でも主婦クラスの超初心者向きのお教室とはいえバレエって難しいです。ヘタすると盆踊りです。優雅さとは程遠い自分の踊りの下手さに毎度泣きたくなります。でも先生がいい人

でどんな下手でも励ましてくださいます。そして音楽。

音楽にあわせて踊るのはとても難しいけれど、楽しいのです。身体のラインがばっちり出るレオタードにバレーシューズを履くだけでうれしい。バーをもって足をぴっと出すだけでうれしいの。

ベーコちゃんはそこのバレエのお教室でバレエの好きな主婦友達がたくさんできました。特にアーコちゃんは同じ年だけどあこがれています。だってどうかすると先生よりも高く足を挙げられるし手の動きがとても優雅。自分のやるバレエには程遠い盆踊りとはえらい差です。なんてきれいなのでしょうか！

アーコちゃんはここのお教室のレベルが基礎だけなのが不満らしく、もう少し慣れてきたら本格的にしてみたいなあっていうので、やめないでいつまでもこのお教室にいてほしいなーって思うのです。

かように子供から習っている人と大人からバレエを習う人には多大な差がある。威鷺羽（いろは）だってそうです。立ち居振る舞いをちらっと見ただけで子供時代からバレエをやっていた人だなってわかります。

まあ3歳からはじめなくとも小学生3年生ぐらいからはじめたら子供からやっていたことになります。バレエ団に入っていた知人からは子供はね、幼稚園からはじめないとね、モノにはならないねって言っていた。そうなのだろうか？でもそうなんだろうと思う。

男性は別よ。

男性は高校生ぐらいからはじめても十分。だって跳躍や女性を持ち上げるリフトが多いからかもしれない。意外なことに陸上や武道をやっている人も結構いるらしいですね。

威鷺羽の知り合いでもうやめてしまわれたけど女性だけど、男性顔負けの跳躍する人がいた。グランジャンプの時なんか天井にすっと指の後がつくぐらい。（そこはビルの中のお教室だったので天井が元々低い目というのはあるにしろたいしたもんです。）全くの初心者だけど何けなくアサンブレでちょい跳びするときも飛ぶのが高

い、高い。
こりゃ上手になったらモノになるぞーって思いました。帰り道が一緒だったので何をしてたのか聞いたら陸上、しかもハードルが得意だったと。
学生時代、陸上一筋でしたって。ハードル跳び！なるほど～～～～！
足首が鍛えられていたわけね。そりゃ跳べるわー。
でも残念ながらバレエはやめてしまわれた。けど、印象深かったので彼女のことは覚えている。スポーツの基礎のある人は多少筋肉がついていても努力と根性でバレエができる。（楽しめるかどうかは別。身障のある人でもバレエは楽しんで踊れます。いい先生に出会えるともっといいよ。）

話しがそれたがアーコちゃんもベーコちゃんもかようにバレエを小さい頃したかしないかで、違ってくる。小さいころにバレエをしている人は足が開きやすい、身体が柔らかい、音楽に身体を自然にあわせられるというバレエに必須な感性が身につけられる。
威鷺羽自身も何度これに助けられたことか。お母さん、子供の時バレエを習わせてくれてありがとうって思います。
ただ大人からの人でも何年もやっていると子供からやっていたけど怠け者だと簡単に追い越せます。その例が私だねー。追い越されて笑っている場合じゃないけどね。でもバレエ大好きだから続けているのよーん。

バレエに対する熱意はベーコちゃんの方がどうみても上だから、ベーコちゃんだって今は初心者でも上手になる可能性大。がんばってほしいと思う。

第3話・トウシューズの話その1

クラシックバレエは人間ができる美しく見えるポーズの連続です。それを音楽に併せるの。それがバレエです。威鷺羽(いろは)はそう思っています。

もう1つバレエを知らないひとはこう思うでしょう。

「バレエってトウシューズっていうのをはくやつね。つま先がぴっと垂直に立ってかかとがないくつ。あれでしょう。ピンク色で女の人しか履けないやつ。上手な人しか履けないのでしょ。

あれで片足立ちをしてアラベスクっていうんですか、片足立ちもう片足は背中の方に向けるやつでしょ。角度は90度で。綺麗ですよね、あのポーズ」

かようにバレエって言うとトウシューズとアラベスクのイメージがある。

それと細い人。

それとチュチュ、お衣装のことですね。まチュチュ以外にも本当はいろいろありますけど。

今回はトウシューズの話しです。

トウシューズ。

威鷺羽(いろは)も持っていますよー。3足ぐらい。でも履きこなして踊れますとはとても言い難い。子供の時から実はトウシューズは好きなんだけど履いて踊るのは大嫌いときた。

だってすごい痛いから・・。つま先にマメができてそのマメが破れて水が出るともっと痛いのなんのって。それと痛くなるとぴっと素直に垂直に立てない。膝を曲げてトウで立つと痛みは多少マシにはなるが、見た目が悪い。(先生に怒られます。ピケで立てないと

バレエになれません。）

しかし今のトウシューズは痛くなくて当たり前らしい。以前バレリーナの方々がどのくらいトウシューズを履いたまま立っていられるかのテレビ企画に参加されたのを見たことがある。

リタイアされた方は少数であとはずーーーっと立っていられるの。何時間でも。

また東京タワーの1階から最上階までトウで立ったまま、とことこ歩いて上がって行く。このテレビ番組を見た人もいるのではないかと思うが、痛くなければじっと私だっていけそうとも思った。（いえ思っただけです。私にはできないわ。挑戦した彼女は姿勢もよくやっぱりプロだな、って思いました。）だけどこれはバレエを知らないひとが企画した無茶な要求。出た人は足を痛めなかったのだろうか？バレエ団のよい宣伝にはなったかもしれないけどね。

当時別のをしていてバレエをしなかった。復活時もうトウは痛くなくて当たり前と聞いてとりあえず手近なチャコットで1足購入。そうそうトウシューズって知らないひと、あれはそのまま足を突っ込む人はほとんどいません。綿かゴムで足先を包んで保護してから入れるのです。その保護材にいいのがあって（チャコットではない）ブルーのゴムの大きいのを購入してそれを履いたらおお、立てる！痛くないぞ！

子供のころはあんまりいいのがなかったのと足にあわなかったのだろうな。フィッティングなしでお教室の先生の言われるままに足のサイズを書いたらその翌週に先生が買ってこられたのだ。代金は親が払った。フィッティングは必ず必要だわさ・・。全然知らんかった・・・。

目からうろこ。

ただ1つ。子供の頃と今の自分と違うのは体重っ！太ったのでその分足に負担がかかる。だから今一生懸命ダイエットしてるのさー

ーーーーーっ！

（何もバカ高いダイエット薬を買うことはないです。朝昼は栄養バランス重視の野菜アリのふつーの食事で晩御飯だけもずくとお豆腐です。あとはバレエレッスンで汗を流す。家でもバレエ。ホラ、ダイエット本買わなくっても2行でこの文章読んですみましたねー。なーんて、安くダイエットしたかったらもずくとお豆腐。おすすめです。でもそれだけだと栄養失調になるから他のものは朝昼で食べてね。がんばってください。いや、お互いがんばりましょうね）

第4話・トウシューズの話その2

トウシューズ。上手な人は何足も持っておられる。プロの人のインタビューを見たら踊る曲にあわせて替える、とかトウの摩耗を均等にするために日によって替えるとかいろいろ工夫されている。らしい。

威鷺羽（いろは）はそこまで上手じゃないしプロでもないのでこの1足はかろうじて痛くないわというのを大事に大事に履いているのです。

でもピケが続くと痛くなるんだよね。まだ立ち方が悪いのかもしれません。それと体重があるのだろうと思います。トウに全体重がかかるので、バレエリーナは太ってはいけないのだ。足に負担がかかるってことはひざが弱くなるから。イコール踊れなくなるから。（太ってはいけないのはもう1つあって、男性にリフトしてもらえないから・・・ということもある。この話は別の話題になるから後日に書きますね。）だから今がんばってダイエット、無茶食いしないようにしています。

だけど先日某湯快リゾートに行っちゃった。バイキングと宿泊と温泉がセットされたアレです。バイキングで頭が爆発して目いっぱい食べちゃった。後悔の渦。

だけどああいう場所で食べるなと言う方が無茶だし、一緒に行った人に対しても失礼だよね。と、言い訳しつつ今戻している最中です・・。選びながら食べても（野菜中心＋大好きなライチを10個＋お寿司沢山・・・取っちゃった。禁断のアイスクリームも手をだしてしまった。しかもお替わりまでした。だって自分で作れるようになってるんだもん。と自制の弱い私・・・・おいしかったよお）

というわけで。そ、ダイエットで3キロやせてもたった1泊2日で2キロ戻るの！でも楽しかったから後悔していない。レッスンがんばるし。

ああ、また話しがそれちゃった。トウシューズの話しね。

今トウに履かせるミニクッションもいいのがあって結構いたくない。慣れるといいけど慣れるまでが大変なのがトウシューズ。

まず基本がある程度できないとトウで立てない。ルルベ（つま先立ち）でじっとできないとかつバッセでもじっと立っていられないとトウで踊れない。だからトウシューズを履くと基礎のバーレッスンがいかに大切なものか身にしみてよくわかります。

でもトウで立つとね、少し自分の目線があがるのがわかってうれしかったりもします。だって自分の足のサイズ分、身長がのびるのですよ！

威鷺羽は２〇センチのトウを履いていますので立つと理論的には２〇センチも身長が伸びてるわけ。チビさんなのでそれがうれしかったりする。小さい時、トウシューズを初めて履いたときの感動を思い出したりもするのよね。

でもバーで足慣らしをした後にセンターに移るころになるとどうにもこうにもトウが痛くなって脱ぎたくなるの。小さいころからそう。だから足にあわないのかと思って買い替えたりして結構お金をかけているのに・・。フィッティングはよかったけど、何時間も履いて踊れるようになるためにはどうしたらいいのだろうか・・・これが今の私の課題です。これができないと絶対に長丁場は踊れんじゃないか。困るよ。

まあ、私はプロではないのでセンターも痛いよお・・と思いつつなんとかやりこなしてレッスンを終えることはできる。そして終わるなりトウを脱いで解放感を味わうのだ。いけないなあ。

第5話　プロの公演　ＶＳ　アマの発表会

プロ・お金をとってバレエを観せる人。バレリーナ、バレエダンサー。バレエをしてお給料がもらえる　　ごくごく一部の人たち。自分の身体が資本だからある意味ストイックだ。修行僧みたいに毎日毎　　日レッスンしている。バレエが好きでなければできないし、かつ才能がなくてはできない職業　　だ。

アマ・自分でお金を払って発表会に出させていただく。安くないからお給料や家計をやりくりしてお願　　いします、と出させていただくのだ。

　かつ家族や友人等を招待させていただいてバレエを観にきていただいている人。

　へたでもバレエが好きな人。バレエが趣味な人。

プロとアマ。この差がものすごく大きいのだ。バレエでは特に。

プロならば公演。成功して当然。
アマならば発表会。失敗して当たり前。

アマならば発表会でもたとえ舞台で派手に転んでも、素人目にも「ぁ、今失敗した・・・」とわかっても「とーってもすてきだったわ～すごおおおおいっ」とかほめてもらえるし。

　まるで似合ってない衣装でも「かわいい、すてき！よく似合ってるわ～」とかお世辞でも言ってもらえるし、化粧がヘンだと思っても何も言われないし。

　楽屋見舞いと称してお花やおいしいお菓子の差し入れをもらったりする。

何ももらえなくとも見にきてくれるだけでもうれしい。
特におじいちゃん、おばあちゃんはかわいい孫が初舞台を踏むとあればたとえ飛行機を使ってでも遠方から（たった5分の出番でも）観にいったりもするのだ。そういう熱心なお客がくれば出る方も張り切りようが違うというもんだ。
そういう1日だけのバレリーナ気分が味わえる。このために地道なレッスンをするという人も多いと思う。発表会って観客もバレエ評論家みたいに評価が厳しい人は来ないだろうし、楽屋もわきあいあい、楽しいお祭り気分だ。
（発表会といえども、全幕公演の主役やソロの場合は話しがまた別になります。今回は割愛します。）

さて、プロ公演。海外の国立バレエ団から、日本の私立のバレエ団。はては男性のみのバレエ団も。熱心なファンがつくとおっかけもいるという。
アマチュアの発表会とはえらい違い。
タダ同然のチケットなんかない。良い席は争奪戦。それにお金もかかる。たった2時間座っているだけで1万円以上する。ぜいたくだよね。
でもやはりプロはプロ。2時間弱で別世界の夢の世界を体験させてくれたりする。世の中のしがらみなど全部忘れて物語の世界に陶酔させてくれたりもする。
プロだから「あ、今失敗した」とか、「今度のピルエットでもどうかよろけたりしませんように」とかはらはらすることはめったにない。
物語の世界にとっぷりと浸らせてくれるのがプロ公演。さすが～とか思う。

威鷺羽は観る方にもお金かけました。ルジマートフ全盛期のときなんか通しで全部買ったりしました。今は貧乏なのでそんなことで

きなくなったけど。ビデオ持ってるよ。
キエフ、シュツットガルト、フランス。主な海外の来日公演はほぼ観ていたのではないかな。お給料半分以上使って。
だからこそ、言える。
バレエは夢の世界だよって。

しかし、観る方は大好き！でも観るよりも自分で（ドヘたくそでも）踊るのが実はもっと好き、というタイプもいる。私がそうなんですよ。
あ、本音いっちゃった。
でも、別に私はナルシストでもなんでもない。分はわきまえてるし。

だからね、観るのも踊るのも大好きな私はどっちも楽しめます。っていいたいの。
プロだろうが、アマだろうがレッスンの内容は基本一緒だってわかっているし、１つのパを踊りこなすのに、どんなに血のにじむような努力が必要かがわかってる。
プロ公演を観るときでもただの発表会でも踊るという苦労がわかるっていうのは大きな武器です。かつ大きな味方でもあると思ってる。プロ、アマ。どれをとっても感動をくれるのでバレエが大好き。
たとえ、プロとアマの大きな差があっても基本的な感動は一緒だと思う。
だからね、威鷺羽はバレエ評論家って嫌いです。あんた達いくらお給料もらってんの？ふーんだ！
えらく的外れな批評を恥ずかしげもなく書いている人いますけどね、私はそういうのって嫌いだな。

あ、また本音書いちゃった。でも私の踊りを評論してくれること

はまずないし、嫌われても平気だよーん！！

第6話・オーラの話

某バレエ教室で他のクラスのレッスンを見たとする。
もしくは某バレエ教室の発表会で普段めったに会えない友人たちの踊りを観たとする。
こういうのは1人で踊らない。たいてい10人以上同時に同じ踊りをするコールド（群舞）だ。で、見学しているとどうも1人の生徒もしくは出演者に目がいくことがある。みんな同じ踊りをしていて彼女（もしくは彼）はどうみても主役ではない。
でも同じ振りで踊っている中、目を追ってしまうのだ。美人とか女性陣の中の男性一人という理由もあったりするときもある。だが今回はそうでない場合の話しです。

なぜだろうと思っているが・・、以下の文章、これは私の全くの個人的な感想です。
あるとき突然「オーラだ！」とひらめいたのさ。

「オーラ」

何となく目を追ってしまう人って、彼女（彼）に独特のオーラがあるんだって納得することがありました。そう、オーラを持っていたのです。これは万人がそう感じるものではないので説明の微妙だしあんまり声高にいうと確実に変人扱いされるでしょう。だからここで匿名の状態でしかいえないです。
これがそうですとはいえないし、はっきりしたことも誰もいえないでしょう。だけど「オーラ」としかいえない。
まったく同じ踊りでレベルも一緒。容姿も特に際立っていない。なのに、ついつい彼女（彼）の踊りを見つめてしまう。もちろん上手な人は上手なオーラがある。主役の人は主役のオーラ。

だがそういいきれないこともあるのがとても不思議。ただ私だけかな、と思っていたら翌年の発表会には先生もわかってきたのか、ど真ん中で踊らせていた。もちろんぐっと上手になって上手のオーラも加わってもっともっと目をひく存在になっていたのだ。

その気になる彼女、今度は子供ばっかりの発表会でミニ2幕ものだけど主役をやるらしいから（実はまだ小学生です。）楽しみにしている。でもレッスンの行き帰りではごくごくふつーの小学生なんだよねー。オーラが全くないの。

レッスンでもそんなに目立たない。なのに発表会ではこの差。勝負に強い性質なのかなあ???

今の時点ではよくわからないが、まだまだ先が長いのでオバサンは彼女にひそかに注目しているのだ。

オーラの話しだがオーラがまったくないのに、一緒にレッスン場で踊っているうちにあれ?この人すごい、キレイ、光ってるよ!と思ってびっくりしたことがある。どちらかというと平面顔（ごめん、すごい失礼だな）なのに、トウをはいているうちになんというか王女みたいな風格が出てきて、すごいすごい、と思ってくるのだ。

もちろん上手なことは上手なんだが、このぐらい上手な人はいくらだっているさ、のレベルの上手さ。なのに、目をついつい追ってしまうこの不思議。

威鷺羽は別にビアンでもなんでもない。（誤解されると困るのでいっておく・・。）この人の踊り、好きーというわけではない。だからその人のオーラが私のとあうのかなあ?って思うの。相性っていうのかな?

今回は万民向きの話しではないので、ごめんね。私がそう思うってだけかもしれない話しで・・。すみません・・。でも霊感ゼロの私なのに、不思議だね・・・。こいつ変人と思われただろうなあ・・・。

オーラの話しは今回限りにしますのでまたエッセイ読んでやってね・・。

第7話・身体の柔らかさ

バレエをするには絶対必須なもの。それは「身体のやわらかさ！」です。

この一言につきます。バレエを踊って楽しむには、かつ人にも踊りを見せて楽しませるには身体が柔らかくないとできません。

身体が柔らかいってどういうこと？

バレエを踊るには、身体が柔らかくないと、怪我をする可能性が大きくなります。だからレッスン前に身体をほぐしておいたり、温める目的で軽くストレッチをして、バーレッスンにつきます。

身体の柔らかさを示す　目安の1つに「スプリッツ」と言う言葉を挙げときます。

バレエの場合は最低限スプリッツといって胴体と足を垂直に（前後ろに）１８０度広げられることです。バレエを全然知らないひとにはすげえって驚かれますが、マジで最低限これができないと足だって９０度以上には上がれないし、アラベスクやアティチュードだって無理。威鷺羽みたいななんちゃってアマチュアバレエもどきのバレエ好きだって、やれて当然の世界です。（私、できるんだよ、一応ちゃんと）

さて上手な人は例外なく身体が柔らかいです。スプリッツは当然として後ろの足をさらに９０度に曲げてそれを両手でつかんで背中を倒す。中国曲芸の芸当すれすれの技ですがそこまでできると、ドンキでジャンプのときに軽く飛んでも１８０度足を空中でのばせます。背中ののけぞらせてそれはもう見事なバレエのポージングです。

アラベスクだって１２０度あがります。ギエム見てください。ギエム様最高っ。すごいあこがれます。ただそこまでいこうと思えばこれはもうなかなかできることではありません。

かようにバレエの道は狭く険しい。
足首慣らしからはじめてスプリッツだけは根気のない怠け者の私だってレッスンがなくとも毎晩しています。身体の柔らかさはバレエをやるには必須です。ただバレエの雰囲気だけ味わいたい人はそこまでやらなくともふつーのストレッチだけで十分です。
絶対柔らかくしたい人は地道ですがお風呂上りに身体の温まっているときに柔軟体操をして、酢のものを積極的に取る。
無理は禁物です。怪我の元。
ゆっくり年数かけてやるしかないですね。こればかりは。
私も発展途上中です。

第8話・バレエを知らないひと達の話

以下はバレエを全く知らないひとから見たバレエ観の話しです。
バレエをという言葉を知ってはいても太もも丸出しの超ミニの横広がりレーススカートで踊るヤツ。とか、とても有名な白鳥の湖の言葉だけは知っていても中身はぜんぜん知らなくて、人間が白鳥に化けて踊るヤツ。とか言われたことがあります。確かにそうなんだが、化けて人をだますヤツだろう、と言われてキツネじゃないのに・・、と絶句した覚えがあります。

特に後者の人。じゃあ、一度一緒に見て見ましょうよ、とてもきれいだしおすすめですよ～と威鷺羽がお誘いして観にいきました。
その人もバレエ初体験。結構わくわくしてこの公演を楽しみにしておられたようでこちらもテンションがあがります。外国のバレエ団の公演で主役は有名なバレリーナ。いやがおうにも期待感が高まります。

なのに・・・、第1幕。
無事に終わりやっぱり綺麗だなあ、とうっとりしていた威鷺羽。相手の人、だんまり。どうしたのか、よくなかったのかと思って聞いてみると、あちらは「白鳥の湖」って聞いていたのに、白鳥がただの1羽も出てこなくてふに落ちなかったらしい。
そういえば白鳥の第1幕は確かに白鳥は出てこない。王子が今度女王が開く舞踏会で結婚相手を決めなさいと言われていやだ～と思っている。だけどお付きのものがあそこに白鳥の一団が、あの森の湖に降り立っています、狩りにでも行きませんか?と結婚を嫌がる王子をなだめてなぐさめるのです。
第1幕は確かに話しはそこまでで、確かに白鳥は出てこない。そう説明してじゃあ、第2幕が楽しみだね～と気をとりなおしてもら

う。

そう、第2幕もおもしろい。王子とオデットの出会いがある。美しいパ・ド・ドゥやパ・ド・トロワ、4羽の白鳥の軽快な踊り、見どころはいくつもある。それにオディールとロットバルトがでてくるぞ～

3幕の結婚を誓うシーンで絶対波乱万丈を起こすこのオディール＆ロットバルト。いいぞ～～。

なのに、第2幕では相手は退屈してうとうとしていたという。バレエを知らないひとには難しいのか？ただひたすら手足を動かしていて音楽も退屈でついうたた寝をしてしまったわ～と言われた。

そうですか、退屈でしたか？

・・・そういや自分自身も子供の時に観た白鳥の湖も確か退屈でぐずっていた覚えがある。おもしろいのは4羽の白鳥のシーンだけだったな。それを思い返せば怒れないが。

それともう1つ。バレエを全く知らないひとからトウシューズをみて「纏足（てんそく）」みたいだねと言われたことがある。彼は男性でバレエを言葉だけは、ダンスの一種とまでは理解していたが観たことがなかった。テレビの宣伝かなんかで観たのだ。

あれを履いていて痛くないのか、纏足、知っているか、ほら、昔の中国で女児が小さいうちから小さい足になるように包帯を巻いておくヤツ。きつきつに巻いておくと足も成長しなくなるんだ。昔はそれが当然の風習だったんだよ。

そういや、彼は歴史オタクだったっけ。日本史にも中国史にも異常に詳しくもちろん三国志や水滸伝も大好きときている。

纏足は中国の上流家庭の子女の証とまで言われていたらしい。成長しても普通の靴では歩けない。足のサイズは13センチぐらい。よろよろとしか歩けない。今でいえば立派な小児虐待だか当時は大真面目な風習だったのだ。纏足をしていなかったらいいところにお

嫁に行けなかったらしい。
　威鷺羽はトウシューズを纏足みたいといわれてある種の新鮮な？衝撃をうけたが実際バレエを知らないひとから見たらそう見えるのかもしれない。
　トウシューズなんか履いて歩く人は町中ではまずいませんしね・・。バレエを観る機会のないひとはホント、とことんまで観る機会がないもんね・・・。別にいいけどちょっとびっくりしたので書いてみました。

第8話・バレエを知らないひと達の話（後書き）

そうそうトウシューズはいて踊る人って足の爪あるの？って聞かれたこともありました。履いているうちに爪がなくなると思っているらしかったです。

第9話・アラベスクの話

バレエをよく知らない人でも有名なこのポーズ。決まると本当に綺麗だ。上手な人がやるとそこだけが1枚の絵。なんという美しさ。

1本の足ですっくと立ち、背中はまっすぐ、顔も凛として余裕の微笑み。

そしてもう1本の足は当然120度以上の角度であがってる。90度でもオーラのある人はそれだけで目をひく。（45度でもだ）

プロのアラベスクの写真を見ると単なるバレエ好きとは決定的に違うのは足の甲だろう。形よく甲が飛び出せているというのは生まれつき＋努力のたまもの。そして甲からつま先にかけてすっと伸びあがっている。小さなしゃちほこ、ですね。以前ダンスマガジンでマラーホフが芝生で寝っ転がって足だけ後ろにあげておどけているポーズを見たことがあるが、私的な写真のはずなのに彼の足の甲がすっとあがっていてさすがプロだなあ、と感心した覚えがあります。

ちょっとバレエをやっていたらアラベスクぐらい、と思うのかもしれませんが、綺麗にポーズを決めるのは本当に難しいです。私も一応90度は足は上がるのですが、瞬間芸か?と思うぐらい一瞬です。これではいけない・・。もっとがんばらないと。

ポーズは秒単位で、ですがきちんと止めないといけません。

そこでいきなり発表会に話が飛びますが、アラベスクの振付がふんだんにある曲目を踊ったときのこと。アマチュアの発表会では舞台写真屋さんがどこからともなく現れて写真を撮ってくださいます。そして後日撮った写真に番号をつけて、出た人たちのうち、欲しい人だけ欲しい枚数を売ってくださるのだ。

発表会後、みんなでサンプルをまわし見る、そしてどの写真を買

おうか買うまいか悩むのだ。全部買うとマジで万札が何枚も飛んでいってしまいますので。

同時に己の姿を写真で見てうっとりできる人はいいですが、私はたいてい反省の場になりますね。もちろん記念に買いますけど。もっと美人に写してくれ、もっと細く撮ってよ、もうちょっとカッコよくなんでこんな変な顔してるときに撮るんだ～いじわる、へたくそ・・・とか写真屋さんがその場でいたら傷つくぐらい私達はいろいろ言うわけです。（全部写真屋さんの腕ではなく、自分が悪いのですけどね。）

舞台写真のプロが撮るのだから、「一応は」一番足があがっている瞬間を撮ってくれてはいるのだろう、とは思うけど自分で納得いかない。足がたれてる、手が変。顔の表情も緊張で強張ってすごい変。

（いやいやいや・・写真で知る己の超現実。がっくりしつつ、それでも一応の晴れ舞台。思い出に買うのでございますよ。出させていただくだけありがたいことですよね、感謝しないとね・・）

アラベスクの写真、へただけど確かに私だ・・・！と観念して買うのです。

「ま、私って本当に上手ねえ！」って思えて堂々と写真を買える人、うらやましいですねー。そういう人はやっぱり自分の部屋に額をつけて飾るのでしょう。大きいパネルサイズで注文していらっしゃいますよね。いいなあ～。

アラベスクが決まると他のがへたでも結構うまくみえるものらしいです。ポワントが多少よろけていても、びしっと最後のキメのポーズがきまるとそれが、七難隠す、なんでしょうね。先生からそう伺ったことがあります。

私もほんと、年ばっかりくって、ヘタなままです。悲しい現実ですが今後もがんばります・・。角度1でもあがるように・・・。目標？もちろんギエム様です・・。ハイ、身の程知らずですみません・

第１０話・オープンレッスンの話

まずは昔話から。

私の子供の時のバレエの先生は女性でした。若い女性。大きなお教室の支部という感じだったので、時々先生がかわったりしました。今から思えばバレエ団員の先生が交替で「教え」とされていたのだと思います。

上手な子は支部だけではなく、発表会前とかは本部のクラスに行かされたりしていたようです。また統制というのか徹底していて当時から学校でいえばＰＴＡ会費にあたる会員費等をレッスン料以外にも徴収されていましたが、先生の公演の割り当て切符売りとかも。きっと今もそうなんだろうと思います。

子供の時は何も知らなくてバレエ教室ってこういうものだろうと思っていました。

がっ！！

バレエ教室やバレエの先生ってほんと、いろいろあるんですよ～～～っ。

全然知らなかった。

大人になってから自分の稼いだお金（お給料のことね）でバレエレッスンに通うようになると、このお教室以外のところにいこうと思いました。だって子供の時は威鷺羽はぜんぜん目立たない生徒かつちっとも上達しない生徒で顔もかわいくありませんでした。そしてそこの先生は上手でかわいい子ばかり露骨にエコひいきする人だったのであまりいい思い出がないのです。もう全然ない・・・。だからあの先生がいたところは絶対避けようと思いました。

いろいろ検討し無料レッスンがあるところは体験させていただいたこともあります。そしてここがいいなって決めたところに落ち着きました。（今はなくなっています。今はまた違うところにいます

けど）

だけどあるとき何かの告知でいつでもどこでもレオタードとシューズさえあればレッスンしてくれるところがあると知りました。

そして、そのレッスン場というか場所といえば。

バレエをやっている人で知らないひとはいないでしょう！！

その名も「チャコット」様っ！！！

チャコットがバレエのオープンレッスンを広めた功績は大きいと思う。そして大人バレエの認知も。すごく大きいです。文化勲章はもらえるかどうかは知らないけど、威鷺羽は個人的に勲章を差し上げたいぐらいです。

もともとＮＹやロンドンでは早くから誰でも受講できますというオープンレッスンをしていたのでそれをチャコットの誰かが日本に持ち込んだのだろうと思います。先見の明がありましたね。

今や、見よ。チャコットのタイムテーブルはバレエスケジュールでいっぱいだっ！！もちろんフラメンコやタップ、ジャズも少しはありますがバレエ主流！最初はチャコットもホント、すこーししかスケジュールはなくて、午前中とかは空白だらけだったと記憶しています。でもいまは平日からバレエができる羨ましいい身分の人たちが増えて昼間から堂々とバレエが踊れるのだっ！！

なーんていい時代なんだろう。

今は都会に限りますが、あちこちでオープンレッスンをやっています。

昔と違い生徒の囲い込みとかもないです。今やよその先生につくといけません、変な癖がつきます、ということをいう先生は考えが古い。古臭い。多少は生息しているようですが。そういうのは威鷺羽はついていけません。

オープンレッスンとはいっても一応会員制というのがあって入会金を入れて、チケットを買って、という方式が一般的ですが入会金を払わなくとも割高であってもビジターでも受講できますし、入会

金すらないところもある。いろいろです。先生もいろいろ。教え方もいろいろ。楽しいですね。

ホントいい時代になったなあ・・・！！って思います。

第１１話・外股の話

外股・・・「そとまた」って読んでください。漢字がわからないけど、「そとわ」って言う人もいます。俗にバレエ足。

バレエを長くしていると足のつま先が外側に向いてきます。柔道や空手をやっている人にも見られるアレです。武道の場合はガニマタともいいますね。膝も曲がってて・・。

威鷺羽（いろは）もね、外股なんです。小さいころからバレエをしていたので自分では意識しなくとも外股です。

実はバレエ等芸術には全く関連のない職業についています。最初に先輩方から「なんでそんな歩き方なの？ペンギンみたいね～」って言われました。

ペンギン・・・？

びっくりしましたがああ、確かペンギンも外股だったな。と思いつつわざと手もぴんとつっぱらかして、足もわざと思い切り外側に向けて。おどけて歩いてみます。

そうするとみんな笑って「かわいいじゃん！」と言ってくれました。言われたその当時は２０代。今はそんなこともおばさんなので誰もかわいいとはいってくれないですが。（気味が悪いだけだよね）別にいいけど。

冬のスキー場に行った時、雪原をスキー板を履かないで歩いて何気なく振り向いたとき、点々と続く自分の足跡を見てぎょっとしたことがあります。ものすごい外股で。他の皆さんはまっすぐに足が揃ってなんかかわいいの。内股歩きをする子の足跡なんかとても上品そうにみえる。だけど私の足跡って乱暴な歩き方しているみたいで・・。自分で自分の足跡を見てびっくりするなんて・・・。

でも治そうとはしない。母は結婚式の時の着物に着替えたとき、絶対に歩き方は内股で歩きなさいよっ！って１００回ぐらい言い聞

かせられましたっけ。見た目すごいヘンだそうだ。母は幼い私にバレエを習わせてくれた感謝すべきお人なんですが、このときだけはバレエじゃなくて日本舞踊を習わせたらよかったと後悔したそうです。

でもね、バレエ公演とかでホール等に行くでしょ。知り合いじゃなくとも、同じ舞台を観た場合行きも帰りも地下街で同じ方向で行くことがありますよね。そうすると私と同類の方々が外股で歩いている。あっちもこっちも。ああ、あの人もバレエをしているんだ。いるじゃないか！私と同じ歩き方の方々が！ハイヒールで外股あり、ローヒールでもスニーカーでも！あちこちに！！

ああ愛しいバレエ人よ。

ね、平気だよね。

そういえばあるバレリーナが亡くなられてお棺に入れようとしたとき、裸足の足が１８０度水平に開いていたそうです。さすがだ。って居合わせた人々が感心したそうだ。

バレエ一筋で天寿を全うした人ってすごいですね。

バレエ大好きなままでプロにもなれずたまの発表会でも万年コールドで天寿を全うした威鷺羽の場合はやっぱり「足がヘン」って言われるのだろうな。多分お棺に入れられても足の角度も水平な１８０度にはならなくて、１００度ぐらいだろうし。

なんだかヘンな話しになりました。

またね。

第12話・バレエピアニストの話

バレエピアニストの方と踊られたことはおありでしょうか。
威鷺羽はないです。一度は生ピアノで踊ってみたいですが・・。
あこがれますよね。

バレエピアニストには2種類あるそうです。
レッスン用と舞台用で。もちろん1人でこなされる人もいます。
ずいぶん前ですが米田ゆり氏のインタヴュー記事を拝見してへえーと感心したことがあります。
舞台で踊られる方とピアノを弾いていたらもう全然違うらしいです。実名を挙げてみるとピアノの音がしてから動く人、足を挙げる人・・ギエム。音と同時に足を挙げる人・・・吉田都さん。自分が先に動いて後から音がするのを好む人・・森下洋子さん。
ですって!!

これぱかりはレッスン場や舞台で一緒に時をともに過ごした人でないとわかりません。音の後先って本当に一瞬の話なんでしょうが、プロの人でもやはり好みってあるのですね。どっちが弾きやすいというか仕事しやすいかっていうとそれはやはりプロですのであわせられるみたいです。
この小節はターンをゆっくりとかでも。でもあんまりダンサーの好きなように踊りやすいようにしすぎると曲全体がヘンになるのでその兼ね合いとアドバイスが難しそうですね。言外に無理難題を言うダンサーがいるようなことをいってらしてどの職業も楽じゃないな、好きじゃないとできないなーって思いました。でも尊敬しますね。私も一応ピアノを弾きますので。ダンサーにあわせるピアニストはまず曲を弾きこなせないとできないし、バレエの振り付けも覚えてないとできない。たとえば2幕のコーダから!と言われてさっ

とひかないといけない。ミスタッチすると踊りとあわなくなってすぐわかる。士気も下がるし迷惑がかかるし。大変そう。（米田氏も当然バレエをされていたそうです。）

レッスンピアニストもそうだ。たとえばおおまかな曲の選択はまかされていても、のれるのれないはダンサーの上手下手もあろうがピアニストの力量もあると思う。踊りにあった曲、弾くの大変そうだ。だからあこがれています。弾く方も踊る方も！

一方ダンサーの方。生ピアノでは私は経験はないですが何と生ギターならあるんです！バレエじゃなくてフラメンコを踊ったときだったんですけどね。発表会のために。一応レッスンで超初心者？になるのであちらが私の足元を目をさらのようにしてあわせてくださったんです。

ギターの場合はピアノと違って楽器ごと抱えて身体が動かせますから（フラメンコギターですので）ものすごい申し訳なかったことを覚えています。でもやはりプロでしたので慣れてくるとＣＤの曲ではなく、やはり生ギターの伴奏の方が断然踊りやすいのに気付きます。もう全然違います。生演奏の方が踊りやすいです。多分バレエの方も生ピアノでレッスンしていくうちにそうなるのではないかな？海外では普通のレッスンでもバレエピアニストと一緒というのが一般的なようですし。

日本でも普通のレッスンでも生ピアノつきっていうお教室が存在しているのを把握していますが、時間が全くあわぜ行けずじまいです。いつかやってみたいですね。

ではでは。読んでくださってありがとう。

第１３話・フェッテと手拍子

拍手ではなくて、手拍子の話です。

黒鳥やドンキのクライマックスにトラント・ドゥ・フェッテ、つまり３２回転がありますね。主役級しか踊ることができないあこがれの大技です。

無事踊りきると拍手の嵐。観客の感動を表わす鳴りやまない拍手は花束にも負けないバレリーナ達への励みになるのです。

ところが！

拍手ではなく、手拍子・・ってわかります？

フェッテの途中で手拍子をする人たちがいるのだ！最初なぜそんなことをするのか私にはわかりませんでした。だが彼らは喜んでいてかつがんばれ、がんばれと声援のつもりでしていて決して悪気はない。

だがバレリーナにとってはやりにくいことこの上ないだろう。

フェッテできる人、途中で手拍子をされて無事３２回、まわりきれます？

音楽と手拍子、ためしにしてみて。全然あわないから。

これ日本だけの現象かどうかはわからないけど、なんで手拍子するんだろ？

わざわざチケットを買い求めてホールへ行くバレエファンは決してそんなことはしない。公的な補助金でうけて格安で舞台チケットを買う人、こういっちゃ悪いけどバレエを見慣れていないひとがするみたい。

バレエをよく見るわけでもないが多少は知っていてクライマックスはなんていうのか知らないけれどぐるぐるまわるんだ、すごいん

だよ、ぐらいは知っている。

私は堂々たるプロの人がこれでくずれたのを2回見ています。いずれも普段は文化会館か何かでバレエ公演には使わないところイコール、普段バレエを知らないひとが大勢観客としてこられるところでした。　気の毒で仕方がなかったです。１人は日本人で手拍子が沸き起こったとたんにくずれ、残りは全部シェネで乗り切られました。にこにこ笑顔で乗り切りさすが主役だ～と別の意味で感心しましたが、幕間で「片足でぐるぐるまわってなかった、あれは失敗したんだ」とか誰かが言っていて残念に思いました。

もう１つの舞台はロシアのバレエ団の地方公演です。名の知れたソリストです。ガラでしたけどね、名前をあげませんが5、６回ぐらいまわった頃に手拍子が誰かがしてそれから会場全体が手拍子・・・！

うわー・・と思っていたら案の定くずれてあとはアラベスク等で即興で乗り切られましたが、彼女は憮然としていた。

終幕で舞台アンコールにも出ましたが終始不機嫌な顔！

手拍子なんかするから間違えたのよ、私が失敗したのはあんた達が悪い！という表情が読み取れました。感情が正直に顔に出るタイプなんだろうね。（威鷺羽一番前の座席にいたのでよく見えたんです）私も観客の一人として主役の彼女の踊り切ったわよー！私の踊りって素晴らしいでしょっていうご機嫌な良い表情見たかったですねえ・・・。あの舞台、彼女の憮然とした表情の理由に何人気付いたかしら?

フェッテのときに手拍子が起こって崩れそうになりなんと半回転ずつで乗り切った人も観ています。舞台上に男性舞踊手がいてすごく心配そうな顔で見守っていたのが印象的でした。私もはらはらしていましたが彼女、３２回目は観客を前に無事着地しました。笑顔

で。大したもんです。

プロの人達へ～、地方公演の時は手拍子はやめましょうってアナウンスしてもらうか、手拍子のアクシデントにも対処できるように踊る練習をするかした方がいいのかもしれないですね。

第１４話・バレエでいい年の取り方をしたいです。

年の話をすると・・・って、嫌な話題だと思われるでしょうか。

バレエを趣味でやっておられる方って年齢不詳の方が多いと思うのです。私もいちいち聞かないけど大体この年齢ぐらいかなあって思うことはあるけど、共通してどの方も素敵なんです。

こういう年の取り方なら私も年寄りになるのもいいなあって思うくらい充実されているみたい。

たとえば産んだ子供には小さいころからバレエを習わせていたけど成人してもうやめちゃった。だけど今度は自分でしてみようと思うの、とか。以前からあこがれていたから、とさらりとおっしゃる方。

いずれもまわりの人がやってるからとかではなくて、自分がやってみたいから始めてみた、というのがポイント。周りに流されず自分の生き方を生きられて、それがたまたまバレエをしたときにたまたま威鷺羽と出会って一言だけ言葉をかわすのです。

一期一会って本当でその時にしか会わなかったけど、１０代２０代に混じって初心者ながらも物おじしないで踊られるって羨ましい度胸なんです。いずれもプロになりたいとかではなく、自分がしたいからするっていうのがいいよね。私も我が道を行くタイプなんだけど、彼女達は時間に余裕があってお金があってバレエが好きっていうのがホント羨ましい。

威鷺羽は仕事持ってても貧乏だし子供小さいし時間やりくりしてやっとレッスンに都合付けていくというのと大違い。何ごとも余裕あるっていうのは羨ましいです。

女同士って居心地の良さと陰湿さが同居する。だけどバレエレッスンに限っては仕事上や私生活の浮世の義理がないし、その場限り

の会話になりがちだけど、それが妙に威鷺羽は嬉しいひと時なんです。

私の彼はそれは趣味だけのつきあいだからだよ。利害関係がないから言えるんだよって冷静にいうけど、そんなんであっさりいえるもんじゃない。文章力があんまりないのでどう書けばわかってもらえるかはわからないけど、私はそれだけなんだけど、なんだかうれしいのです。

もちろん会話なしでレッスンだけというのもありだけど、難しいアンシェヌマンにあたり、踊れないどーしよー、ひえええっと思ってふとすぐ横を見たら同時にお隣の人もひえええっと思ってて思わず顔があい以心伝心で笑顔をかわしたり。

レッスン中の会話は全くなしでも着替えが終わって笑顔で「お疲れ様」っていう一言でほっこりしたり。それだけなんですけど、今度もがんばろって思います。

５０代以上の人達も増えていく傾向で私もいずれ５０代にはすぐなるだろうし、何歳になってもバレエ好きでいたいなあって思います。

そうそうイギリスでパイナップルというバレエのオープンレッスンスクールがあります。通う生徒たちで最高齢が９３歳とか。パイナップルの公式ＨＰで明記されているので迎える先生陣も誇りに思っているのでしょう。きっと素敵ないいおばあちゃまなんだろうって思います。

私も最高齢記録を目指したいです。

第１５話・産後バレエその１

経産婦です。

威鷺羽のバレエ歴って

?子供のころ、

?独身貴族時代

?産後。

いま産後バレエです。産後バレエって書き方はよくないかもしれないが自分的にはそうなので。

さて?と?には大きな差がある。

何が違うって自分で稼いだお金で教えていただくバレエはその分元をとろう?と無意識的に思うせいか子供時代に習っていた時よりも「上手になりたい欲望が強い」ってことです。子供時代のように親にお教室に連れていかれて、ただ何となくバレエしているという感覚がないです。

それに子供の時はただひたすら先生が怖くてバーレッスンのときでも先生が順番にこっちの方へ近づくとああ何を言われるか注意されるかはたまた怒られるのかと戦々恐々としていました。

「わからないところありませんかー、はい、ないですねーじゃあ、音楽かけますねー」とか言われてもわからないまま。大体子供が大人の先生にここわからないよお、とか言えるはずない。（いまどきの子供は先生にもため口をきくらしいですが）

それで音楽がかかっても立ちつくすできの悪い万年４列目の威鷺羽含む数人の子供達。先生のお怒り炸裂!

「だからさっきわからないところないかってきいたでしょっ!!」

発表会なんか「どうしていつもでも同じ所で止まっちゃうの、早く振付覚えなさいっ!!」という先生の剣幕におされて泣き出す子

もいましたね。あの時の恐怖が蘇ってしまうなあ・・・。
　マジ何度言っても上手にならないできの悪い生徒だったので、かまってもらった記憶なんかない。ほめてもらったのもないという有様でした。スプリッツも一番最後にやっとできた、と思ったら「あらいつのまにかできてたわ、」と言われただけ。（この子やっとできたのね、やれやれ・・という意味合いは子供心にわかったの・・うれしかったのにな、）

　子供クラスの教えをされるいる先生、もしこのエッセイを読んでいただけるならばどうかできの悪い目立たない子供でもほめてやってくださいね。本当にほめて育てていただいたらどんなに励みになっただろうかと切に思います。

　そして?の華の独身貴族の時代。自分のお給料でレッスン代やレオタードを選び放題になるともう自分で意見もいえるようになります。先生っ、ここがわかりませんーとかね。
　一応人見知りをする目立たない生徒でしたが子供からやっていると相当できが悪くとも大人からはじめたばかりの人とは手足の使い方が少しは違うらしく、発表会でもパートの部分の最初に出させてもらえたりは、そういうのはありました。
　しかもできたらほめるタイプの先生だった。しかもすごい美人で綺麗！バレリーナのお手本の体型。今でもなおあこがれの先生です。
　そして?時代の先生はバレエって楽しいな、こんなにバレエを踊るのってこんなに楽しかったんだ、と目からうろこをいっぱい落としてくださった先生です！
　ここでも覚えの悪い生徒だったので親しく口を聞いていただけるなんて全然なかったけど、今でも感謝しています。

　そしてもっさりした威鷺羽にも春が来て、嫁いですぐ妊娠しました。ベビーを授かりそのあとどうしようもない産後太りに悩むわけ

です。（食べつわりってご存知ですか?食べても食べても苦しいの。食べないとしんどいの。）産後はぼよんとした下腹と体重増加に真剣に悩むのだ。

なんとかせねば~と乳飲み子をかかえて子供入室ＯＫのバレエ教室をさがす。それで出会った先生がまた良い人で。現在に至っています。あ~いいところに入れて本当によかったと今でも思っています。

さてこっから本題の産後バレエに入ります。産後バレエ2をもしよかったらご覧ください。でも食事中の方は見ないでいただきたいのでいったん話しを区切らせていただきますね。

第16話・産後バレエその2

食事中の人は遠慮してほしいためにいったん区切らせてもらいました。

それでは、さっきの続きに入ります。

?の産後バレエ真っ最中の威鷺羽ですが、身体の変化にすごく悩みました。産後太りのぶよんとした体型の変化よりも切実な悩みです。

それは「尿漏れ」

実はお産のトラブルが少々ありまして、その後遺症で尿漏れがおきたんです。それと腹筋が皆無になりました。尿漏れと腹筋は当然つながりがあります。

ここでいう尿漏れとはおねしょとか尿失禁ではなく、くしゃみをした瞬間や笑った瞬間、言葉を出した瞬間等に自分の意思に関係なくぴゅっとおしっこがでてしまうのです。この「あっ今膀胱からおしっこが出てしまった!生暖かいおしっこがパンツを濡らした!!」と思うわけです。尿意もなにもないのに、いきなりおしっこが出ちゃう・・。いい気持ちなんか全然ない。階段を下りた拍子にも出る。立ちあがった拍子に出る。車から下りたとたんにどっとでる。出る。出る・・出る・・・。

それが「ザ・尿漏れ」

乳飲み子をかかえて悩みました。手術もしないと行けないのだろうか?検診のときに医師に相談しても時間がかかるけど治ると思うとの頼りない返答だった。

加えて腹筋。普通の生活でたとえばソファにすわりますよね。立ちあがろうとします。でも身体がソファに沈んだまま立ちあがることができないの。彼に引っ張ってもらってやっと立ち上がれる。車からも一人で降りれなくとくずれるようにへたっと車からころげお

ちるわけです。一度ベビーを抱っこしたまま椅子から下に落ちてしまった。腰をうたなくて本当によかった。あの時は危なかった。

産前産後はバレエを休んでいたし少しでも腹筋を回復させたくてベビーが寝ているうちにストレッチをしようとするわけです。軽くプリエをする。まあできる。

さてグランプリエ。

えっ、できない・・・！

できないよお、どおしよおーーーー！！

グランプリエで身体を沈ませるとそのままグランプリエのままずっと立ち上がれないの。それがわかったときの恐怖といったら・・。

それでも毎日少しずつしました。バレエストレッチを。そして折見て昼間ベビー連れでも（レッスン場にベビーを連れて置く）ＯＫのところ。

ベビー連れの件は先生に直訴したらあっけなくＯＫがでたの。あとはまわりの人たちに説明、幸い寛容な人たちばかりでうれしかった。（レッスン中は私の場合は誰にも預かってもらえなかったので・・）

そうやってすこーしずつすこーしずつバレエを再開。もちろん尿漏れパッドをしっかりとつけて・・。

でもバーをやっている時点ですぐに疲れてべったりと座ってしまう。足を何気なくひょいと挙げた拍子にピュ！うううう・・・・っ！

心の中でうめき声をあげつつそれでもがんばりました。

前に書いたように大人から再開したバレエの先生はいずれも良い先生で、「あちゃ～」と思われたことも一杯あるに違いないけれどほんのちょっぴりの良いところを（多分苦労して）探してほめてくれるわけです。威鷺羽はバカなんで舞い上がります。ほめてくれる

ったって、レオタードの色とか足の甲の運びとか・・。あの時はね。来週もがんばろって思わせてくださった先生に感謝です。

話しは元に戻りますが薄紙をはがすように治るっていうのはこういうことかと思いました。週に1回のバレエレッスンとお風呂上がりのバレエストレッチ。これで治ったんですYO．あの時の頼りない医師のいうとおりだった。時間はかかっても治ったんです。尿取りパッドは今ではもう不要です。

今でも妊娠前のことを思えば完全には治っちゃいません。でもおかげさまでずいぶんとマシにはなりました。

足も独身時代のようにはいきませんが少しはあがります。

多少の身体の不調もバレエレッスンを受けることによってずいぶんと楽になるのです。怪我もねん挫もしましたがそれでも細々と続けていけるのはよほど好きなんだろうな。我ながらあきれてしまいますが、それでもバレエっていいなあって思います。

以上のことでバレエって私にとっては個人的な趣味を通り越してもはや私の救世主なんでございますのよ・・。

第17話・バレエ教室でのいじめ・その1

バレエ教室のいじめ。

私が見聞きした話しをかこう。これって?の独身貴族時代の話しで昔の話しだし、今そのお教室はなくなっているので、書いてみようと思います。

発表会で群舞で踊ることになりました。総勢20人ぐらい。そのお教室のそのクラスの全員が出る。1つの出し物を一生懸命に覚えて踊ることになったわけです。

そのお教室は大人からのクラスでした。子供は1人もいない。そして出演者20人ぐらいのうち3分の1ぐらいが威鷺羽のような子供からやっていた人で残りは大人からはじめた人たち。

別に本格的にしていたわけでもないし、それに週1回のクラスだったのでわきあいあい和やかムードです。かけもちで私達の踊りにも出るけど、ソロにも出るような人はみんな週2，3回～毎日レッスンやっています。そりゃそうだ・・。週1のレッスンではなかなか上達しないしね。

私はこのクラスで特に親しい友人はいなかった。べったりで私達友達～とか言うタイプではないのですが、帰り道が途中まで一緒ということで、ある年下の子とよくしゃべったりしていました。その子はそのクラスの中で一番の新参者でしかもバレエがはじめて。だけど先生からお誘いを受けて喜んで発表会に出ると決めたわけです。

バレエは小さい頃からあこがれていたという子だったのでそりゃ熱心に受講していました。だけどはじめたばかりで身体が硬いのは仕方がないです。子供大人に限らずバレエを始めたばかりの子はみんな一緒。手足が硬く動きがぎこちない。当然です。

さて早くも発表会の当日になりました。

早めに楽屋に入って身体を慣らした後ゲネプロをします。1回してから楽屋に戻る廊下でその子が思いつめた様子で私に訴えます。一体どうしたのか、と思って聞いてみると「Aさんが・・私がいるせいでこの演目が乱れてしまう。揃わないからもっと熱心に練習するように」とか言うのです。しかもさっきも言われたばかりだという。舞台メークした目に涙がにじんでいる。

「Aさんがそんなことをいうの・・？こんな本番間際になって？？」

「いえ、ずっと前からです。でも今日もさっきも言われたの・・私がんばっているのに、私これ以上・・上手に踊れません・・しく・・しく・・」

Aさんは子供からやっていた人でその点は威鷺羽と一緒です。でもはっきりいってソロとか踊れるレベルではない。だけど大人からはじめた人が多いこのクラスでは中心となって最初の踊りの冒頭で「さあ踊りましょ」のマイムをしたりします。先生とは個人的に親しいのか家に遊びに行ったりしているとはちらと聞いていました。だけどそんな指導がましいことをする人だとは思いませんでした。

よく聞けば最初からその子のことが気に入らない（注：Aさんの言い分は聞いてない。その子の受け止め様です）みたいでまわりの人がいないというか誰も聞いていないときにそういう新人いびり？をしていたらしい。

私は誰とも親しくしていなかったのでAさんとも個人的にしゃべったりしたこともない。だけどAさんはこのクラスのムードメーカーみたいな面はあるな、と思ってはいたが揃ってないから練習しないとかいうアドバイスはそりゃ先生の仕事じゃないか？なんでAさんが彼女にそんなことを言うのか？

彼女が帰り途がたまたま一緒と言うだけの私に訴えたのは、当のAさんが私に発表会の伝言があるとき等遠慮がちにものをいったりするせいもあるかと思う。レッスンのときは仕事のためぎりぎりで遅く来て終われば会話にも加わらずさっさと帰る私が煙たかったのかもしれない。

発表会の本番用の綺麗なお衣装をつけたまま、私達は廊下のすみのソファに腰かける。私は彼女に「発表会は良い思い出を作るために出るものでしょ。自分が楽しいから踊るんでしょ、だから泣くのはやめましょうよ。自分が一生懸命踊ればいいだけのことだし、Aさんのために踊るんじゃないでしょうが」とかいってなぐさめたわけです。

そして気をとりなおした彼女と連れだって指定された楽屋に戻るとき小部屋が並んでいる前に少々大きめの踊り場というほどのことでもないがスペースがある。そこへ私達がでるクラスのみんなが集まっていた。

「？」とおもっていたらAさんが私達に向かって探したいたのよ、とかいう。そしてAさんは言った。

「あの、まだ揃ってないしこのままではみっともない発表会になってしまうから場当たりは終わったけどまだ時間あるし自主的にみんなでここで稽古しませんか？」という。見ればかけもちでソロに出るような子にも声をかけたらしくみんなで揃っている。Aさんの視線は私の横にいる彼女を見ている。彼女はそっと私の影に身をよせた。Aさんが怖いのだ。

私はAさんにはっきり言った。

「ゲネプロは終わったしあとは本番だけ。今から稽古したければ、やりたい人だけがやれば？私はこの子と楽屋に戻るから」

Aさんの顔色がメークをしていてもはっきりと変わった。Aさんはみんな集まってくれているし私達も当然一緒に稽古に加わると思い込んでいたのだ。Aさんの返答を聞かずにさっさと私達は楽屋に戻った。

「」「」「」

第18話・バレエ教室でのいじめ・その2

続きです。

私達は2人で楽屋に戻った。

すると後からクラスの半分ぐらいが私達の後をついてきた。これには驚いたが他の人達もこのクラスをしきろうとするAさんに反感をもっていたのがはっきりとわかった。Aさんはやりすぎたのだ。

自主稽古もいいことだが揃ってないとかみっともない、という言葉は先生なら許せるが1生徒が言うセリフではない。

入ってきた人たちはみな無言で私の顔を見た。時間にしては短いが私が何を言うか待っている。私は言った。

「せっかく安くはないお金で発表会に出るもん。いい思い出になるとそれが一番いいよね」

みんなはうんうんとうなづいて、あとは好きな椅子に座って思い思いに化粧直しをしたりおしゃべりしたりなんか食べたり荷物の整理をしたりした。

私がAさんを責めるのは簡単だったが楽しい1日になるはずの発表会の雰囲気を壊したくなかった。せっかくの半年以上もがんばって練習してきた発表会が、楽しみにしてきたこの本番の大事な1日が台無しになる。だから楽しい1日になるはずなのにAさんの悪口なんか絶対に言いたくなかった。

そういえば彼女はその前の発表会の時もヘアアクセに「こうしたらどう?」と言いだし先生が最初おっしゃっていたのと微妙に変えた。私にも前に出過ぎてるからもう少し後ろにつけたら?とかいって余計なことを言った。おもえばAさんは完璧主義でしかも自分のいうとおりに人を動かしたい性格だったのだろう。そんなに悪い性格でもなかったが新人の子を私いびられているんです、と思わせる言動や、先生がやるならともかくただの生徒が仕切る行為はやるべ

きではなかったのだ。
私は鈍感で全然気付かなかったが、皆でしゃばりで余計なことをいうAさんを「ちょっとお・・」と思っていたのだろう。

ややあってAさんが自分と親しい友達と連れだって楽屋に帰ってきた。結局彼女がやりたがった自主稽古は人数が少なすぎてできなかったようだ。あ、楽屋は同じ部屋でした。（その他大勢は当然大部屋です。個室もらえるのは先生や先生がお呼びしたゲストだけ！）
Aさんは自分に同調してきた残っていた友人と一緒だった。そして部屋に入ると私を黙って見つめて何か言いたそうにした。が私は無視した。何も言わなかった。なごやかな楽屋にまた緊張が走るがそれは一瞬のことだ。Aさんもバカじゃない。彼女も何も言わないことに決めたようだ。
お互い何も言わないことにしたことでよかったのだ。

結論を言うと結局自主練習をする間もなく本番をしたが、いままでにない良い出来栄えだったことを言っておこう。誰も失敗しなかった。振付を間違えもしなかった。音楽と振りのずれも皆無。
別の演目に出る人たちや振付をした当の先生から拍手とおほめの言葉をいただいたぐらいだ。

Aさんにいびられたと私にうったえた子は結局この発表会を機会にそのクラスをやめた。私にはきちんとあいさつして別の教室に行くことに決めたと告げた。
かように女同士っていうのは難しい。Aさんがヘンだとかいうのは簡単だが平たく言うとAさんはただの1生徒だった、それとクラスをまとめる人望というかカリスマ性みたいなものがなかったということと、生徒みんなが大人で自分の給料をやりくりして楽しむた

めに発表会に参加しますという意識を強くもっていたということがあったからあれですんだのだ。

あのクラスが週に1回のレッスンではなく、毎日レッスンのある本格的なアドバンスクラスで毎日顔をあわせるクラスだったらまた違う展開になっていたかもしれない。

「」「」「」

とを見てそこでしてくださいと言ってくれるもんだし。順番だって最初はわからなくとも覚えていくもんだし。なんで先生に頼まれてもいないくせに、スタッフでもないくせにしきりたがるのだろうか？そういう人は例外なくそこそこは踊れるが単なる人間の底の浅さが見える。黙ってじっと見ている私は顔には出さないがひそかに軽蔑している。

「」「」「」

む。大嫌いな人種なのでこの大事な私の人生にできるだけかかわらんようにしている。ただしバレエ関係ではプロは知らないがこういう手合いはアマでは少ない。だって大人バレエレッスンっていうのは大胆な言い方を許していただけるならある意味自己満足、もしくは個人競技的な趣味だからだ）

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

　ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5514w/

バレエ・バレエ・バレエ

2011年10月12日16時49分発行